

第14回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

第14回戦略会議については、引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止のため、一箇所に集う形での会議は行わず、資料配付により事業の進捗や情報の共有を行う形態で実施しました。

その概要は以下のとおりです。

●内 容

1 令和3年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業（北部地域関連）について〔説明〕

- I 京都介護・福祉人材総合支援センター（FUKUJOB きょうと）の運営
- II 福祉人材育成認証制度等の活用促進
- III 京都府北部福祉人材養成システム推進事業
北部福祉人材カフェ運営事業、北部福祉人材確保・定着事業
- IV 介護・福祉を支える多様な人材の確保
介護に係る入門的研修事業、外国人介護人材確保事業
- V 介護福祉職場の業務効率化事業
介護福祉職場の業務効率化に資する介護ロボット・ICTの導入経費への助成
- VI 福祉人材カフェ・福祉人材養成事業

2 京都府北部人材養成システム推進事業の推進について〔報告〕

(1) 令和2年度京都府北部人材養成システム推進事業について報告（2月末時点）

■北京都ジョブパーク福祉人材カフェ

新規登録者数： 365名（年間目標： 420名）

内定者数： 309名（年間目標： 360名）

のべ相談数： 1,723件（年間目標： 1,300件）

- ・のべ相談件数は、来所利用者は激減したが、出張相談、電話やメールによるカウンセリングを積極的に行った結果2月末時点で年間目標を達成した。
- ・内定者数については、新規登録者の減少が影響したこと、法人側が採用活動を一時中止したこと、求職者が不要不急の外出を控えたことなどが影響し、のび悩んでいる。一方、正社員の内定者数については、未経験者の採用を「正社員」での採用に切り替える法人が増え、中高年齢者も正社員採用されることも多くなり、2月末時点で年間目標を達成した。

■ハローワーク連携事業

- ・北部のハローワークと連携し、福祉の就職説明会を61回、ミニ就職フェアを18回、出張相談会を55回実施し、合計242名の方に参加いただいた。

■求職者向けセミナー

- ・世代別（若年・ミドル・シニア）福祉の入門セミナーや、テーマ別（認知症サポーター・聞こえのサポーター養成講座）福祉の実践セミナーを実施し、202名の方に参加いただいた。
- ・加えて、事業者向けには、「オンライン説明会のやり方セミナー」を実施した。

■福祉即戦力人材養成科

- ・丹後地域：修了生 19 名のうち 2 月末現在で 14 名の内定が決定（訓練期間 7/21 から 12/18）
- ・中丹地域：修了生 18 名のうち 2 月末現在で 11 名の内定が決定（訓練期間 9/ 1 から 1/29）
- ・まだ内定先が決まっていない方についても引き続き支援する。

■理解促進事業

- ・次世代担い手育成事業（小学校・中学校 対象）
3 校 7 4 名が参加
- ・次世代担い手育成事業（高校生 対象）
出前講座 及び 高校教員向けセミナー(オンライン) を実施

■大学実習等誘致事業（北部福祉フィールドワーク事業）

- ・新たな取組として、従来の「資格実習型」と「まちぐるみの体感学習型」に加え、大学(教員・学生等)と府北部の福祉施設とが、福祉施設職員がオンラインや出前講座等で提供する“福祉の学び”でつながる「ラーニングサポーター型」フィールドワークを新たに構築し実践。
- ・2 月末時点で 5 大学・1 専門学校 3 5 7 名が参加、3 月「まちぐるみの体感学習型」の実施に向け調整中。

《きょうと介護・福祉ジョブネット 北部フィールドワーク型実習推進チーム》

- ・以下のとおり会議を開催し、チームメンバーを核に、大学(教員・学生等)と府北部の福祉施設とが福祉の学びを通してつながり、府北部の福祉職場への就職に繋げる仕組みを新たに企画し実践した。

第 1 回会議（ 5 月 28 日 ）：ラーニングサポーター型フィールドワークの進め方を確認

第 2 回会議（12 月 10 日）：ラーニングサポーター型フィールドワークの実践状況と今後の展開を検討

コロナ禍での各事業所における新たな活動や、大学の反応について情報交換

第 3 回会議（ 3 月 ）：オンライン会議によるふりかえりを予定

(2) 北部福祉人材養成システム関係団体から報告（2 月末時点）

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

- ・資格取得研修（実務者研修受講者 26 名等）、各階層職員向け研修、職場リーダー養成研修、防災研修、外国人介護士受け入れスタッフ研修 等
- ・令和元年度介護福祉士合格者 39 名

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

- ・卒業生は 2019 年度生を加えて 90 名を超す人材がそれぞれの施設で活躍しているところ。
- ・令和 3 年度は 13 名程度が入学見込み(2 月末時点)。

《宮津総合実習センター》

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、実習やインターンシップ等の受け入れを一部見合わせたか、WEB を活用して福祉現場のリアルを伝える 1 対 1 の対談「WEB トーク」や「リモート見学ツアー」、これからの福祉を参加学生らで考える「オンラインワークショップ」「オンラインセミナー(THE 福祉セミナー)」等を実施した。
- 8 月以降は、法人で整理した「実習受け入れガイドライン」に基づき、現場での実習や見学の受け入れを行った。
- ・高校生の現場体験については、7 月から地元高校の授業の受け入れを開始し、10 月まで実施した。

(3) 情報交換及び意見交換 等

- ・昔から「福祉・でも・しか」といって、景気が悪くなったら事業所は人材確保を期待するという状況が、府北部地域でも確かにある。リーマンショックの際は特に顕著だったが、新型コロナウイルス感染症による、他業界からの人材の流動はほとんどないのが現状。こうした景気の動向で人材確保を期待するのではなく、“どのように福祉職場の魅力を見える化していくか”を真剣に考えていくことが重要。
- ・新型コロナウイルス感染症においても、クラスターが福祉施設で発生したということを大げさに報道されたりといったことがあったが、福祉施設の職員は、利用者やそのご家族に安心してもらえるように、なるべく外出をしない等自粛を徹底するなど、本当に一生懸命努力をしている。職員が介護・福祉の仕事に“誇り”や“やりがい”を持っているからこそその行動であり、こうしたことも今後しっかりと発信していきたい。
- ・北部福祉フィールドワーク事業においても、オンラインを活用した新しい取組も展開されているが、with コロナ時代であっても、福祉施設職員による対面の講座のほか、福祉施設での現場見学など府北部地域に呼び込んで、この地域に来てもらってこそその体験といったものは、やはり、なにものにもかえがたいものだと思う。今後もオンラインの技術を効果的に組み合わせ、協働で事業を推進していきたい。
- ・府北部地域においては、地域の潜在的な働き手に、福祉の職場に入ってきてもらえるように、福祉の現場を整えることも重要。福祉の職場・働く場所の体制を整えるとともに、潜在的な働き手に対する効果的な情報発信についても、ハローワーク、ジョブパークも連携して、今まで以上に積極的に取り組んでいきたい。

以上。